

I 令和 6 年度の取り組み

「気づく 考える 行動する」子供の姿

○物や人との出会い、体験活動、視点を変えることでの気づき

○他と関わり合いながら、推測や情報収集を通して高める考え

○支え合いながら、考えたことに自信をもって行動し認め合う

- ・教科担任制
- ・I C T の活用
- ・教材研究
- ・家庭学習の在り方検討等
- ・教師の声掛けと仕掛けの工夫
- ・思いやりの日

学年(団)を軸とした「カリキュラム・マネジメント」

児童の 1 年間の育ちを見通し、学年経営構想図を基に各学年で教育活動を展開する。また、節目ごとの評価・改善を行い、常に児童の実態を把握しながら学年経営を行っていく。

- ・P D C A サイクル
- ・児童理解、学年担任の意識等
- ・「知」「徳」「体」の重点を意識した指導
- ・学年イベント
- ・いじめ防止対策
- ・キャリア教育
- ・学年会の充実

保護者・地域と共に「コミュニティスクール」

9 名の委員で構成される学校運営協議会を設置し、構成される学校教育方針の共有する。保護者や地域住民と一体となって、学校運営の改善や児童の教育活動の充実を図る。

- ・地域で育つ児童
- ・クラブ活動
- ・地域人材活用
- ・児童の学習活動、学校整備に関するボランティアシステム
- ・児童の安心・安全をみんなで守る

II 自己評価

○ 児童・教職員・保護者・学校運営協議会委員の評価

質 問 項 目		達成率（％）		
		児童	保護者	教職員
気づく・考える・行動する	自分や身の回りの課題に気付くことができる。	89. 4	72. 5	70. 4
	自分の力で、または、周りと関わりながら、考えを深めたり、課題の改善方法を考えたりすることができる。	87. 6	79. 5	51. 9
	自分で考えたことや改善方法を、実際に行動に移すことができる。	83. 6	77. 9	74. 1
知育	学習したことが身に付いている。	95. 0	86. 7	66. 7
	家庭学習(学年×10分・1、2年生は目安の時間はなし)に取り組んでいる。	78. 1	67. 7	40. 7
	学校で学んだことが将来の役に立つと考えている(キャリア教育)。	94. 6	65. 1	66. 7
	教科担任制を通して学習への意欲や学んだことへの理解度が高まっている。	90. 6	78. 4	59. 3
徳育	自分の良さに気付いている。	90. 0	80. 2	66. 7
	学校に楽しく通っている。	87. 2	92. 9	96. 3
	いじめは絶対にしてはいけないことを理解している。	97. 7	98. 6	92. 6
	公共マナーを守っている。	93. 5	97. 2	66. 7
体育	自分から進んで気持ちのよい挨拶をしている。	85. 6	72. 2	44. 4
	進んで体を動かしている。	80. 8	74. 5	74. 1
	家の中での過ごし方を考えたり、交通ルールを守ったりして、安全に生活している。	96. 3	93. 0	51. 9

IV 学校運営協議会による学校関係者評価（R7.02.17（月））

- ・学年カリキュラムマネジメントの取り組みは、とてもよい。構想図を作成する時間を軽減したらどうか。構想図の形式を統一したり、完成された構造図を年度当初に作成したりするのではなく、付け加えていく。保護者にも目標や取り組みを発信していけるとよい。
- ・いじめの対応は見えない部分もあり、難しいと思う。引き続き、学校には丁寧な対応をお願いしたい。
- ・授業の終わりには、児童がその時間の授業に対してのフィードバックを行ったらどうか。課題を明らかにし、次の授業に生かしたり、授業内容について担当も振り返ったりすることができる。教師間の連携も図り、授業全体の質を上げ、子供の学力を上げているとよい。
- ・学校と家庭が意見交換できる場を設けられるとよい。

V 次年度に向けた改善策



- ・職員へのアンケート結果から、「学年カリキュラム・マネジメント」により学年で同じ目標をもって取り組むことができた効果を感じている。目指す子供の姿に向かって、学年でどのような取り組みを行い、その結果子供たちについた力は何かを便りやホームページを使い、昨年度に引き続き具体的な子供の表れをより丁寧に伝えていく。また、構想図の形式を来年度から統一し、全職員がより共通理解を図りながら年間を通して教育活動に子供の目指す姿を念頭に置きながら取り組んでいく。
- ・いじめを未然に防止するために、今後も「学年カリキュラム・マネジメント」を通じ、「思いやりの心」をもった学年集団を形成することで「いじめ0」を徹底していきたい。
- ・コミュニティスクールを通した学習ボランティア（なないろパレット）を一層充実させ、いろいろな人から学び声掛けをしてもらうことで、児童が自分の学びを実感することが大切である。また、学年の保護者にも学習ボランティアの募集を行い、日頃の子供たちの様子を多くの保護者の方に見て頂き、学校・家庭・地域が一丸となってよりよい子供たちの成長を支えていくようにする。また、児童にとっては、達成感を味わうことで、さらに学びたいという意欲や学んだことが生活の場面でも生かされていることに気づき、キャリア教育の推進につながると考える。
- ・読書への意識をより高めていくために、来年度も外部講師（劇団たんぽぽの団員）を招き、群読の指導を行い、本に興味をもつ環境を整えていく。また、読書ボランティアによる読み聞かせや読書の時間を引き続き行い、本に親しむ環境を整えていく。
- ・動画視聴の課題に対しては、情報モラル教育を学年の実態に合わせて、計画的に行い、指導した内容を家庭に伝えることで、学校・家庭で課題解決に向けて取り組んでいきたい。

III 評価からの分析

【アンケート結果より】

- ・「気づく 考える 行動する」の合言葉を元に、各学年の実態を捉え学年担任が目指す子供の姿を意識しながら教育活動を工夫し、支援を行ってきた。それにより、児童の 8 0 %以上が気づく・考える・行動する力がついてきたと感じている。気づくことができても、その気づいた課題を自分の力で解決しようと考えることが苦手な児童が多いと教職員は感じていることが分かった。
- ・教科担任制を導入していることで、学習の意欲や学んだことへの理解度が高まり、学習したことが身に付いていると実感できていると約 9 0 %の児童が感じている。しかし、実施教科や時数の調整など課題を感じている教員もいる。
- ・家庭学習への取り組みについての達成率が、昨年度に引き続き低い評価になっている。特に、自分で考えて学習を進めていく高学年段階で不安を抱える児童や保護者がいる。児童の実態に合った家庭学習の取り組み方を学年で検討していく必要がある。

【全国学力調査の結果より】

- ・将来の夢や目標を明確にもち、友達関係も満足している児童が多く、毎日の生活が充実していると感じている。
- ・一昨年課題だった朝食の喫食率は、全国とほぼ同じ割合に上がった。これは、昨年度行った保護者向けに食の大切さを伝えた講演会や、簡単にできる朝食のメニューの実習に行った成果だと言える。
- ・平日に携帯電話やタブレットを使つてのゲームや動画視聴をしている時間が全国に比べると長い。2 5 %以上の児童が 3 時間以上ゲームや動画視聴をしている。

【いじめアンケート結果より】

- ・いじめは絶対にいけないと約 9 8 %の児童が理解している。本校では、「芳川北小いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止やいじめの早期発見など対応を行っている。いじめを認知した際、「いじめ対策防止基本方針」とはままつの教育「いじめ対応の手引き」に沿って、被害者に寄り添って対応している。また、保護者にはいじめの状況や指導したことなど、事実に基づいた報告を心掛けた。教職員がいじめがいけないと理解している児童が約 9 3 %と感じているのは、実際に対応してきたことも大きく影響していると考えられる。

